

1. 学校の概要、目標及び計画

(1) 法人名・理事長名・学校名・校長名・所在地

法人名 9 b e 学園
理事長名 加藤 稔子
学校名 九州美容専門学校
校長名 加藤 稔子
所在地 熊本県熊本市中央区南坪井町10-28

(2) 本校の沿革

大正 9 年		美容研究所 開設
大正 14 年	4 月	東洋美容術研究所 開設
昭和 3 年	10 月	熊本美髪女学校 開校
昭和 23 年	3 月	厚生大臣指定取得（林謙治）
昭和 24 年	4 月	北千反畑町から薬園町へ新築・移転
昭和 25 年	8 月	九州高等美容学校に校名変更
昭和 45 年	11 月	厚生大臣指定取得（内田常雄）県知事（寺本広作）
昭和 47 年	3 年	設置者変更 県知事（沢田一精）
昭和 60 年	5 月	専修学校認可取得 県知事（細川護熙）
平成 10 年	4 月	指定取得（美容学校2年制度） 厚生大臣（小泉純一郎）
平成 16 年	4 月	専修学校九州美容専門学校に校名変更 県知事（潮谷義子）
平成 13 年	3 月	専門士称号取得 文部科学大臣（町村信孝）
平成 24 年	2 月	法人化、学校法人九州美容専門学校となる
平成 28 年	2 月	文部科学大臣認定 職業実践専門課程として認定される (文部科学省生涯学習製作局長)
令和元年	5 月	9 b e 学園に法人名変更 県知事（蒲島郁夫）
令和 2 年	4 月	創立100周年を迎える

(3) 教育目標

学校教育法及び美容師法に基づき、美容師としての専門的知識・技能の育成を図ると共に、社会人としての豊かな教養や態度を身につけ、社会人として心身共に健康な美容師の育成を目指す。

■**建学の精神**：学生に下記の3つのチカラを養成することを目的に、教育活動を行う

1. 自らで生きるチカラ(自分に厳しく、自分を大切に)
2. ヒトと生きるチカラ(人に感謝し、人に感謝され)
3. 社会と生きるチカラ(社会に貢献し、社会に必要とされ)

■**入学受入方針 アドミッションポリシー**

当校の建学の精神、教育方針、及び卒業方針を理解し、その目標に向かって努力できる人材を受け入れる。

1. 自ら率先して学ぶ意欲があり、努力できる人
2. 相手の笑顔に幸せを感じ、感謝の心を持てる人
3. 美容に興味を持ち、美容を通じて社会の役に立ちたい人

■教育課程編成・実施方法 カリキュラムポリシー

幅広い教養と、美容知識・技術の主体的な習得を通して、社会人として求められる豊かな人間性を養成できるよう科目を編成している。

1. プロフェッショナルとして、必要な知識と技術を身に着ける為のカリキュラムとインターンシップを提供する
2. 豊かな人間性を養うプログラムを提供する
3. 課題を発見して解決する社会人基礎力と、社会における使命感を育成するプログラムを提供する

■卒業方針 ディプロマポリシー

カリキュラムを履修し、美容の専門職として必要な倫理観・知識・技術・技能を有するとともに、自ら学び続ける能力と、社会・地域に貢献できる能力を備えたものに専門士を授与する。

美容分野における専門職としての知識・技術を有し、

1. 何事にも主体的に取り組むことが出来る能力を有している
2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を有している
3. 社会・地域に貢献できる能力を有している

(4) 教育指導計画

2年間の就学期間が充実し、自己の夢や希望の実現を図るため4つコースを設定し、意図的計画的な教育課程編成・実施を行う

(教育課程編成の基本)

- ① 美容師として必要な基礎的・基本的知識や技能の定着により、在学中に国家資格の取得を図る。
- ② より広い教養と豊かな国際感覚を持ち、社会人としての人格の陶冶を目指す。
- ③ 体験・経験活動を重視し、実践的な態度やコミュニケーション能力の育成を図る。

(本校在学中の取得資格)

- ① 美容師国家試験受験資格 美容師免許取得 (国家資格)
- ② 一般社団法人 日本理容美容教育センター A B E アイラッシュエクステンション検定
- ③ 日本ネイリスト協会 (JNA) 認定校 ジェルネイル初級技能検定 (内閣総理大臣認定)
- ④ 日本ウェディングスタイリスト協会 (JWSA) ビューティー検定
- ⑤ 一般財団協会 国際美容協会 山野流着装着付 初伝・中伝・奥伝許状

2. 学科等の教育

(1) 本校の特色

創立105年を誇る本校は、常に時代の要請に応じ、変化発展を図ってきた。

本校は確かな力量と豊かな人間性を持った美容師の育成に向けて、確実な基礎基本の積み上げを基に、専門性の高いトップスタイリストコース・メイクネイルコース・ブライダルスタイリストコース・アイラッシュデザイナーコースの4つのコースを持つ美容専門学校として現在に至っている。生徒は、自己の個性や能力、将来の自立に向けてコース選択を行っている。

このような着実な歩みを継続した95年の時は、幅広い美容フィールドで活躍できる4万人もの人材を輩出してきた。その人材は現在全国で活躍しており、「歴史と伝統が築き上げた人とのつながり」が今日の本校を築き上げたといっても過言ではない。

また、本校の特色の一つに、多くの協会の認定校として認められたことが挙げられる。このことは、在学中に資格を取得するという目標の達成に向けて学生のモチベーションを高め、就職の有利さにつながっている。

二つめの特色は、企業との提携により実践的な授業を提供していることである。実体験を通して、職業意識や職業観を高めることによって、美容師の夢の実現に向けた教育課程の工夫も行っている。

これらは、学生生活の活性化を図り、意図的・目的的に努力する意思や意欲を養うことにつながっている。

(2) 教育課程及び年間授業時間

教育課程及び時間数

必修課目（各コース共通）

課 目 単位・時間数			第 1 学年				第 2 学年			
必 修 課 目 47 単位 1, 410 時間以上										
	単位数	時間	第1学期	第2学期	第3学期	計	第1学期	第2学期	第3学期	計
関係法規・制度	1	30					10	10	10	30
衛生管理	3	90	20	20	20	60		20	10	30
保健	3	90	20	20	20	60		20	10	30
香粧品化学	2	60		15	15	30		20	10	30
文化論	2	60		15	15	30		20	10	30
運営管理	1	30					10	10	10	30
美容技術理論	5	150	60	30		90	20	20	20	60
美容実習 (企業との連携による実習を含む)	30	900	240	180	90	510	120	180	90	390
必修課目合計	47 単位	1,410 時間	340	280	160	780	160	300	170	630

コース別選択課目

① トップスタイリストコース

(企業との連携のある課目は企業との協議により課目及び時間数を随時決定することとする)

課 目 単位・時間数			第 1 学年				第 2 学年			
20 単位 600 時間以上										
	単位数	時間	第1学期	第2学期	第3学期	計	第1学期	第2学期	第3学期	計
カラー	2	60		60		60				
トップスタイリスト	7	210					150	60		210

美容総合技術	11	330	60	60	60	180	105	45		150
選択課目合計	20 単位	600 時間	60	120	60	300	255	105		360
総 合 計	67 単位	2, 010 時間	400	400	220	1020	415	405	170	990

② メイク・ネイルコース

(企業との連携のある課目は企業との協議により課目及び時間数を随時決定することとする)

課 目 単位・時間数			第 1 学年				第 2 学年			
20 単位 600 時間以上										
	単位数	時間	第1学期	第2学期	第3学期	計	第1学期	第2学期	第3学期	計
カラー	2	60		60		60				
メイク・ネイル	7	210					150	60		210
美容総合技術	11	330	60	60	60	180	105	45		150
選択課目合計	20 単位	600 時間	60	120	60	300	255	105		360
総 合 計	67 単位	2, 010 時間	400	400	220	1020	415	405	170	990

③ ブライダルコース

(企業との連携のある課目は企業との協議により課目及び時間数を随時決定することとする)

課 目 単位・時間数			第 1 学年				第 2 学年			
20 単位 600 時間以上										
	単位数	時間	第1学期	第2学期	第3学期	計	第1学期	第2学期	第3学期	計
カラー	2	60		60		60				
ブライダル	7	210					150	60		210
美容総合技術	11	330	60	60	60	180	105	45		150
選択課目合計	20 単位	600 時間	60	120	60	300	255	105		360
総 合 計	67 単位	2, 010 時間	400	400	220	1020	415	405	170	990

④ アイラッシュデザイナーコース

(企業との連携のある科目は企業との協議により科目及び時間数を随時決定することとする)

課 目 単位・時間数			第 1 学年				第 2 学年			
20 単位 600 時間以上										
	単位数	時間	第1学期	第2学期	第3学期	計	第1学期	第2学期	第3学期	計
カラー	2	60		60		60				
アイラッシュ	7	210					150	60		210
美容総合技術	11	330	60	60	60	180	105	45		150
選択課目合計	20 単位	600 時間	60	120	60	300	255	105		360
総 合 計	67 単位	2, 010 時間	400	400	220	1020	415	405	170	990

3) 教職員

職 名	専 任	兼 任
校 長	1 名	
教 頭	1 名	
主 任	2 名	
教 員	6 名以上	8 名以上
事 務 員	1 名以上	
計	1 4 名	8 名

4. キャリア教育・実践的職業教育

(1) 方針

指 針	生徒の将来の自立に向けて、一人一人の状況や実態に応じた進路指導を行うためのきめ細かな支援及び援助が行えるシステムを構築する。
指導方針	① 進路指導委員会を組織し、常に生徒の相談に応じる進路指導体制の確立を図る。 ② 生徒の希望に応じた就職情報を提供し適切な進路指導に努める。 ③ サロン見学を積極的に行い、就職に向けた具体的イメージを作らせる。 ④ サロン見学については訪問時における基礎的マナーについての具体的詳細な指導を徹底する。
サロン訪問	① サロン訪問は、進路指導決定の重要な方策であることから、訪問サロンとの詳細な連絡調整及び、訪問生徒に対する具体的な指導の徹底を図る。 ※採用情報を取りまとめ、採用状況・サロン方針を把握する。

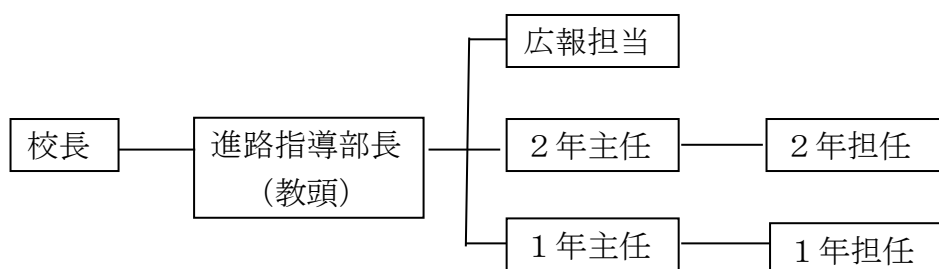
	※本校生徒に対して、サロン訪問の意義及び具体的な対応の指導を図る。 ※サロンに対し、本学及び本校生徒についての情報を提供し、相互理解による効果的なサロン訪問の実施に努める。
--	---

(2) 進路指導年間計画

学年	月	指 導 内 容
1 年 次	4 月	(株)ダリアによる講演会 ver1
	10 月	進路希望調査 個別面談開始
	2 月	就職レクチャー (株)セイファート 就職希望者進路相談開始
	3 月	(株)ダリアによる講演会 ver2
2 年 次	4 月	進路希望調査の実施 進路相談開始 就職フェア参加 (福岡・大阪・東京等) 求人情報公開
	6 月 ~ 7 月	企業説明会・ヘアショー・デモスト 参加 履歴書・面接指導
	9 月以降	就職未決定者個別指導 (随時実施)

(3) 進路指導組織

※校長を中心とした組織的なきめ細かな対応を行う



(4) 令和 7 年度 本科卒業生及び進路 (卒業時)

	卒業生数	進路状況			
		就職			その他
			県内	県外	
衛生高等課程	0	0	0	0	0
衛生専門課程	109	94	77	17	15
計	109	94	77	17	15

(進路・・・美容室・エステサロン・アイラッシュサロン・ウェディング関係)

(5) 実践的職業教育取り組み状況

目的・概要	・現場で活躍する技術者の直接指導を受けることにより、最新の知識・技術・技能を学習し、仕事に対する理解を深めさせる。 ・連携企業でのインターンシップを通して、職場での多様な仕事内容や基本的知識・技能に裏付けられた応用力の必要性に気づかせる。 ・イベントに参加・企画・運営することで、自主的・自発的態度やコミュニケーション能力を身につけさせる。
インターンシップ	・連携企業 20 社でのインターンシップを通して美容師の仕事内容の把握と理解を行い、生徒自身の将来の美容師像の明確化就職意識の高揚を図る。 ・インターンシップは生徒の評価項目に位置づけ、生徒のモチベーションを高める。評価については、具体的評価項目を設定する。
カラー	・提携サロンのカラーリストによる、テクニック・講義を体験することにより、安心・安全な知識、高度な技術を学び、美容サロンでの即戦力となる人材の育成を図る。 ・美容業界で働く事の期待値を高め、今後の学習のステップアップを図る。
ジェルネイル	・ネイルを健康の側面からとらえ、爪の健康を守るための正しい知識や技術の習得を図るとともに、知識・技能を証明する法的根拠としての検定資格の重要性・必要性の理解を図る。 ・ネイル業界が求める人材についての理解を深め、就業に向けたモチベーションを高める。 ・今後の学習と関連性を意識し、自己研鑽に努めさせる。 仕事に対する具体的なイメージを持たせるとともに、職業意識を高揚させ、夢の実現に向けて今後の学校生活を意図的・目的的に努力する意思や意欲を養う。 ・JNA（日本ネイリスト協会）認定講師によるジェルネイル講習会の開催
アイラッシュ	・地まつげに人工毛を付け、表面的に聞かざるものではなく、コンプレックスを解消することができる最も効果的なメイクアップ方法である。しかし、技術者の未熟な技術や誤った知識により危害や苦情が全国的に多いもの現状である。 ・メーカーインストラクター、現役アイリストを講師に招き、デザイン・カウンセリング・テーブルワーク等実際のサロンワークを想定した指導を受ける。 ・アイラッシュ業界が求める人材についての理解を深め、就業に向けたモチベーションを高める。 ・今後の学習と関連性を意識し、自己研鑽に努めさせる。 仕事に対する具体的なイメージを持たせるとともに、職業意識を高揚させ、夢の実現に向けて今後の学校生活を意図的・目的的に努力する意思や意欲を養う。
ヘアセット ヘアアレンジ	・ヘアアレンジについての正しい理解と認識を深めるとともに流行の技術の習得を図る。

	・今後の学習と関連性を意識し、自己研鑽に努めさせる。 仕事に対する具体的なイメージを持たせるとともに、職業意識を高揚させ、夢の実現に向けて今後の学校生活を意図的・目的的に努力する意思や意欲を養う。
--	--

5. 様々な教育活動・教育環境

(1) 美容師国家試験対策

美容師養成学校として、指導の最重点たる美容師国家試験の合格をめざし、実態に応じたきめ細かな指導に向け、以下の対策を講じている。

① 実技試験対策

技術進度別授業体制・・・生徒の技術の進度に合わせて個別指導を実施

チェックテストの実施・・・進度の度合いを確認し、指導方法の工夫改善を図るためチェックテストを行い、規定ラインへの到達を図っている。

規定ラインに届いていない生徒に対しては、放課後補習を行う。

検定試験の実施・・・・・・国家試験に準じた方式による校内検定試験を実施する。

また、実施後のフォローアップを行う。

② 学科試験対策

教科書とワークブックを使用し、繰り返し指導を行い、理解度を高める。

授業進度に応じて国家試験過去問題による小テストを随時実施し、スモールステップによる定着を図る。

試験前には、グループ学習を行い、グループリーダーを中心とした課題解決を図らせる。

国家試験直前には、過去問題及びオリジナル問題を中心とした試験対策を行う。

③ 補習授業の実施

実技・学科ともに知識や技能の定着不十分な生徒に対し補習授業を実施する。(1年次・2年次共)

(2) 各種資格取得の状況及び実績 (令和7年度)

資格・免許等の名称	合格者数	合格率
美容師国家試験 (両方)	92 名	84%
美容師国家試験実技	106 名	97%
美容師国家試験筆記	100 名	91%
日本ネイリスト協会 ジェルネイル初級検定	22 名	100%
日本ウェディングスタイリスト協会 (JWSA) ビューティー検定	18 名	100%
国際美容協会 山野流着装着物着付初伝・中伝	36 名	100%
国際美容協会 山野流着装着物着付奥伝	4 名	100%
日本まつ毛エクステンション協会 Jr アイデザイナー検定	18 名	100%

(3) 美容関連各種大会への参加及び実績

美容関連各種大会の名称	結果
ユーカリジャパン Photo Competition	サロン特別賞・サロン賞 4 名
芸術祭全国着付けコンテスト 中伝の部	優秀技能賞

(4) その他専門的知識の向上に向けた指導

- ① インターンシップによるサロンワーク経験（実習制度）
- ② 提携サロンによるカラー講習会

6. 学生の生活支援

日常支援

(1) 生徒指導

生徒指導は、担任及びサポート教員による協力体制で行っている。

- ① 年度当初に、全学生を対象に個人面談を実施し、生徒の動向把握に努めている。
- ② 出席不良（遅刻・欠席）、成績不振の生徒には、適宜面談を行い問題点の早期把握、改善に努める。

(2) 家庭との連携

- ① 保護者に対し、定期的に生徒の状況を報告する。
- ② 生徒指導上の問題等が発生した場合には、保護者を交えた三者面談を行い、課題の早期発見・早期改善を図っている。

7. 生徒納付金・就学支援

(1) 令和7年度 生徒学納金

	1 年次			2 年次	
	合格時	前期	後期	前期	後期
入学金	70,000				
施設費	130,000			60,000	60,000
授業料		300,000	300,000	300,000	300,000
教育充実費		90,000	90,000	65,000	65,000
計	200,000	390,000	390,000	425,000	425,000
年間計	1 年次合計 980,000 円			2 年次合計 850,000 円	

※上記学納金に加え、教材費（1 年次 32 万円、2 年次 33 万円）が必要になる。

(2) 就学支援

経済的理由により就学が困難な生徒のため特待生制度、奨学金制度、教育ローン、報奨金制度等により経済的支援を行っている。

- ① 特待生制度
- ② 学費分納制度（日本学生支援機構奨学金を利用）
- ③ 一人暮らし応援制度・・・本校に入学するために新たに一人暮らしを始める学生に就学と生活を支援する。
- ④ 日本学生支援機構
- ⑤ 日本政策金融公庫
- ⑥ オリコ学費サポートプラン

8. 学校の財務

本校 HP にて情報公開

9. 学校評価

本校 HP にて情報公開

10. 国際連携の状況

コロナ禍のため、特に活動なし